

マクロ経済学 基礎の基礎 2

GDPと物価 三面等価原則

法政大学 入門ゼミ 馬場敏幸

参考資料:石川『単位が取れるマクロ経済学ノート』講談社

用語

- GDP (Gross Domestic Product): 国内総生産
- 固定資本減耗: 機械・工場などの価値が生産でだんだん価値が減る損失分。会計学では減価償却という。
- NDP (Net Domestic Product): 国内純生産
- GNP (Gross National Product): 国民総生産
- GNI (Gross National Income): 国民総所得
- 三面等価原則: 生産面、分配面、支出面のいずれから国民所得を計算しても統計上常に等しい。
- GDE (Gross Domestic Expenditure): 国内総支出
- 名目と実質: 名目はそのままの金額、実質は物価を考慮した値。

国の生産をあらわそう

国の生産で自動車10万台、りんご50万個を生産する国
国民経済全体の計算 生産量 = 10万 + 50万 = 60万 ?
だめ。台(自動車)と個(りんご)という単位の違うものは足せない
どうする?

金額になおす。すると単位は円で等しくなり足せる

一国の生産量を金額になおして合計 = GDP

GDP (Gross Domestic Product) 国内総生産

GDPとは?

GDPとは

- ①国内で
- ②一定期間に
- ③生産された
- ④固定資本減耗を差し引いていない
- ⑤市場価格で計算した
- ⑥付加価値の合計

GDPの考え

①国内

- GDPはある一つの国で生産された生産物・財の合計

②一定期間

- 通常は一年間。半年や3ヶ月(四半期)などの場合もある

③生産された

- 生産によらないもうけは含まない。
- 株価各上昇での利益は?
- 株の値上がり益など生産によらない益は入らない。
- ただし 株や土地価格上昇→人々は利益を上げる→利益により消費が増える→企業の注文が増える(需要増加)→企業の生産量増加(増産)
- 株価上昇などのもうけそのものはGDPに計算されないが、**儲かった人が消費を増やせばGDPも増える。**

GDPの考え 固定資本減耗

④固定資本減耗を差し引いていない

- GDPのGはGrossのG。「不純物を引いていない」という意味。
- この不純物が**固定資本減耗**(会計学でいう減価償却)。
- 日本でGDP500兆円ほど。固定資本減耗は100兆円ほど。
- $GDP - \text{固定資本減耗} = \text{NDP}$ (国内純生産)
- なぜNDPを頻繁に使わないか?
- 固定資本減耗は正確に金額を把握できないので通常GDPを使用

GDPの考え 市場価格

⑤市場価格で表示した

- 主婦の家事労働、ボランティア活動はGDPでどう計算される?
- 無償なので入らない。**市場取引がないモノは原則GDP計算に入らない。**
- ただし市場価格が無くても例外的にGDP計算に入るモノも。
- 代表が、帰属家賃、農家の自家消費、公共サービスなど
 - **帰属家賃**: 家を持っている人、自分が大家でもあり賃借人であるとして計算。
 - **農家の自家消費**: 農家が自分で生産したモノを自家で食べる。市場価格で計算してGDPに加える。
 - **公共サービス**: 警察・消防などは無料提供され価格がない。サービス提供にかかった費用で計算。

GDPの考え 付加価値

⑥付加価値の合計

- N社のパソコンを12月に購入。11万円。
- N社はパソコンCPUをインテルから購入。Windows7、ワード、エクセルをマイクロソフトから購入。あとは自社生産とする。
- 外部購入分を6万円とし、あとは全て日本国内で生産。一年に一台しか生産されなかったとする。
- 国の売上を計算: 6万円(外部購入) + 11万円(販売) = 17万円(国内での売上合計)
- これでOK?
- これだと6万円が二重計算。販売価格(11) = 材料(6) + 付加価値(5)
- **原材料費などの二重計算をさけるため、付加価値の合計でGDP算出。**

GDPとGNP (GNI)

○ GDPとGNPは何が違うの?

- GDPは国内という「場所」に注目
- GNPは国民という「人」に注目
- GDPの①~⑥との違いは、①が「国民が」になるだけ

○ 国民とは?

- 通常はその国の国籍を持つ人
- GNPでは「1年以上その国に居住する人」

○ GNPはGNI (国民総所得)とも呼ばれる

○ 現在はGDPの方を用いることが多い。

- その国の経済状況を知るためには国内の生産活動が活発かどうか**重要だから**

三面等価の原則

- 三面等価の原則とは次の3つが**統計上**等しいという法則
 - ①国民所得を**生産面**から計算した金額
 - ②**分配面**から計算した金額
 - ③**支出面**から計算した金額
- 実際は等しくないが**統計上**等しくすることで**数字のチェック**が出来る。
- 実際は生産量と需要量は異なるので売れ残りはでる。
- 生産面の国民所得
 - 生産した付加価値の合計。各産業生産の付加価値を合計して求める。
- 分配面の国民所得
 - 国内で得られた所得(個人・企業など)の合計。

10

三面等価の原則

- 支出面の国民所得
 - 国内で生産された付加価値に対してどれだけ支出があったか
 - **GDE(Gross Domestic Expenditure: 国内総支出)**と呼ばれる
 - 国内の生産者が作ったモノへの支出であり、国内の人がどれだけ支出したかではない
- 生産面での国民所得 ≡ 分配面での国民所得 (≒は合同)
 - 付加価値は売上から原材料などを引いた、手元に残るもの
 - これを社員、株主、会社などで分ける。合計も付加価値に等しいはず。
- 生産面での国民所得 ≡ 支出面での国民所得
 - 生産500兆円、日本で生産したモノ・サービスへの需要480兆円
 - このとき、20兆円売れ残る。つまり生産面と需要は等しくない
 - ただし、統計上は売れ残りの20兆円分は企業が支出と考える

11

名目と実質

- 名目とはそのままの金額、実質とは物価を考慮した値
- 月給(賃金率)は2倍になっても物価が2倍になったら?
 - 実質的には賃金率は以前と同じ
 - (名目賃金率/物価) = 実質賃金率
- GDPも同じ。
 - (名目GDP/物価) = 実質GDP
 - GDP計算の際の物価指数を**GDPデフレーター**と呼ぶ
 - GDPの増減は、実質ベースが重要

12